

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	「藤沢市における在宅医療を考える会」研修会報告
演者名	奥野滋子 1)、風間都代子 1)、片町守男 1)、 江口和哉 2)、宮澤正幸 1)、岡田美智子 3)
所属	1) 医療法人社団若林会 湘南中央病院 2) 藤沢市立藤沢市民病院 3) わかば訪問看護ステーション

目的

本会は、藤沢市で在宅医療を推進する人たちの教育、啓発を行い、相互の医療ネットワークを構築し連携を強化することにより当地域の医療の質の向上と地域医療連携に貢献することを目的として、平成 24 年に藤沢市民病院と湘南中央病院によって設立された。5 回にわたって研修会を開催しており、これまでの成果を報告し開催意義について再考したい。

実践内容

第 1 回 (平成 24 年 11 月 15 日) 『在宅医ネット』から学ぶ」、第 2 回 (平成 25 年 6 月 8 日) 「心のケアはなぜ必要なのか」、第 3 回 (平成 25 年 11 月 26 日) 「在宅ケアについて-がん終末期から非がん患者の在宅ケアまで-」、第 4 回 (平成 26 年 6 月 27 日) 「たいせつな人をなくした悲しみをいやすために」、特別講演会 (平成 26 年 7 月 19 日) 「在宅・緩和領域における口腔ケアの重要性」の 5 回を開催した。対象は医師、看護師、薬剤師、介護職、ボランティアである。

実践効果

各回ともアンケート調査を行い、データ処理を行った。アンケートの内容は、参加者の職種、年代、参加動機、講演内容評価、研修の開始時期・時間に関する希望のほか、研修に関する意見や感想についての自由記載をお願いした。参加職種は、医師・看護師・薬剤師などの医療職で 8 割近くを占めているが、その他の職種でケアマネージャーやヘルパーなど介護職の参加もみられた。「大変参考になった」「参考になった」の好意的な意見が 7 割強をしめた。研修の曜日については、週末の開催を希望されている声が多い。今後取り上げてほしいテーマについては、看取りや連携に関するものが意見として多くみられた。

考察

地域の小規模な組織の取り組みではあるが、日ごろ遭遇する問題をテーマとし多職種が一堂に会して自由に意見交換をする機会を提供していく研修会には、地域連携を推進させる一つの重要な役割があると考えられた。今後も本研修会を継続し、さらに質の高い地域医療の実践を目指したいと考えている。